

遺骨預の供養壇を安置しました！！

この度、圓久寺の本堂に遺骨預の為の供養壇を購入しました。圓久寺では、今まで「心を込めて合掌し、御題目をお唱えすることが大事であること」を、ご葬儀を通じたご縁をもとに、ひろめるべく頑張ってお参りしました。

そういった中で、墓地をお持ちで無い方々への対応として、お寺でご遺骨をお預かりし、本堂に安置させて頂いておりましたが、その数が多くなったこともあり、購入致しました。

購入後、お寺にお参り頂いた皆様からは、「本堂がきれいになった」という率直な声をお聞きしました。(笑)

特に、「この三年間一生懸命頑張ってきたことが、形となった」と、吉田師は感慨入っております。喜ばしい限りです。

遺骨預の方々には既に購入をお知らせ致しましたが、改めてここにご縁者の皆様にもお伝えしたいと存じます。皆様のお陰で、皆様とのご縁で、お寺が良くなりました。ありがとうございます。心より御礼申し上げます。

また、ご親族の方やお友達で、墓地を持っておらず葬儀後のご遺骨の扱いにお困りの方がいらっしゃいましたら、どうか圓久寺をお勧めして頂ければ幸いです。

詳しくはお寺までお電話でご相談ください。

合掌



～編集後記～

前回のお便りで、多くの方々より古い御札等のお焚き上げをお預かりしました。圓久寺でしっかりと火にくべて供養させて頂きました。ご安心下さい。

皆様から「圓久寺だより」への喜びの声を聞くことが多くなってきたように感じます。中にはわざわざ感想文をお送り頂ける方もいらっしゃることは頭が下がる思いです。

今後もこういった交流を大事にして参ります。お寺への要望や、仏事に関してわからないこと等、遠慮なくお寺にご連絡ください。

(出来ましたら書面やFAXで頂ければ幸いです。)

合掌

お寺からのお話 ～微笑みて向かえ～

合掌

今回初めて「圓久寺だより」を紙面の裏表で作成しました。それだけ皆様へのメッセージを伝えることが出来ると喜んでおります。

さて、初東雲(はつしののめ)。元日の夜明けをいいます。東の空が茜色に染まってくれば「初茜(はつあかね)。日が昇れば「初日の出」。それらの空すべてを「初御空(はつみそら)と昔の人は表現しました。今年の始まりの朝、昨日までの空気とは違うものに思えます。すべての人々が希望を抱く日です。

昨年のことですが、葬儀を勤めたときのことでした。火葬場から戻り、初七日法要を始めるときに、私が参列の方々に向かって「お疲れさまでした。これから……」と言いますと、すかさず小学生の男の子が「いただきます！」と大きな声で合掌していました。席には精進落としの料理が用意されていたのです。もうお腹ぺこぺこだったのでしょ。彼は「しまった！」と顔を真っ赤にしてうつむいてしまいました。次の瞬間、私も皆さんもこらえきれずに笑いました。そしてあまりのおかしさに皆笑いが止まらなくなりました。悲しみと疲れで重くなっていた雰囲気が彼の見事な演出(?)によって一気に明るく、和やかなものになったのです。今でも、ふとその時のことを思い出すと笑いが出てきてしまいます。私たちはどんなに苦しく、悲しいときであっても笑うことができます。笑うことで心が軽くなります。そうするとヤル気が出てきます。積極的に取り組むと楽しくなります。

このようにして「笑う」だけで楽しく過ごせます。そして自分が楽しくしていると周りの人に元気を伝えることができます。私はこんな風に1年を過ごせたらいいなあ、と思います。(笑うことの大切さを教えてくれた少年に感謝です。)

どうも笑うことは苦手だ、という方は、うそ笑いでいいからやってみましょう。続けていくと笑うことが当たり前になってきますから。(鏡の前で、布団の中でこっそり練習してください。街の人ごみの中では決してやらないでください。)

今年は是非とも「笑いの伝染病」を広めましょう！ ご協力御願います！

本年もよろしくお付き合いください。

吉田俊栄 再拜